

20151125 第 55 回 大阪府市議会議員研修会

テーマ：「気づかせて育てる」へ

講師：神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネージャー、元ラグビー日本代表監督 平尾誠二氏

日本ラグビーの躍進は、よい選手が集まったから

スクールウォーズ見た世代の子供が今の世代

今のチームが質的に、一番よいかもしれない

監督、エディージョーンズのお母さんは日系

日本人のメンタリティや、強さを知っている。

スキルや戦略だけ教えても強くならない。

優れたリーダーの特徴は、極めて理不尽であること。普通じゃない。超自己中心的

これが現実かもしれない

まともな人はリーダーシップ発揮できない

間違っってリーダー選ぶ時

それは、ダメだと思ふことを指摘できない人

そういう人はリーダーの適性ない

エディ監督のもとでは、朝 6 時から練習。4 ヶ月拘束

日本人のメンタリティは我慢強さ

チームのためにという思いが非常に強い

人のために働いて喜ぶことができる民族

これらは海外にはない

大好きな人のために働き、その人が喜ぶ顔見て喜べるのが日本人

日本はこれらを強みにしていくべき

リーダーの条件

①専門性

人を引き寄せる

②人間性

人の痛みを知る、気持ちかわかる、人の努力を無視できない

③一貫性

誰にでも同じ対応

④怒ったら怖い、と思われる人

テクニカルスキルより、ヒューマンスキルある方がリーダーとして必要とされる。

ヒューマンスキルは幼少期から培われるものであり、真似できるものではない

双方のスキルのバランスが大切

スクールウォーズは、伏見工業高校（平尾氏の出身校）の監督がモデル

山口監督 72 歳

毎年、盛り上がる話題は1つ。それは理不尽だった話
人気ない人は、自慢話をする人
恥をかいた話、弱みを見せる、これらは克服できた人しか話せない
そういう過去があったから今の自分がある、と思えている人は克服できている人
2人だけしか知らないをいくつも持ってる人は人生が豊かである
過去あったことをポジティブに捉えてる
子供がひどい目にあっていると認めることに対して
親がそれ以上にひどい経験談があったことを話してあげる
家庭内教育が基本である
若い人の成熟度が足りていないのは、多様な人間関係を構築できていないから
親子、先生と生徒、みんな友達関係になってる
厳しい父、話聞いてくれる母、小遣いくれるおじいちゃん等々
メリハリが大事
ピリットとする緊張感は持つべき
板挟み状態が一番鍛えられる
いかに折り合いをつけるか、高いヒューマンスキルが必要
折り合いをつけるのと、妥協とは違う
理不尽なことをたくさん経験していると、少々のことは大したことないと思える。
社会へ出たら理不尽なことだらけ
理不尽なことを経験することは、子供にとって将来の強みになる
緊張する父の前で、話をすると鍛えられる
徐々に慣れてくる
社会に出て行ったら理不尽は避けられない
理不尽なことの前提に愛情があることは大切
その人のことを思った指摘が必要である
理屈をこねても、人は動かない
ぼく自身そういう時代もあり、痛い目にあって、今の考えに至っている
もともと理論理屈派だった、サッカー岡田監督、野球古田監督
今は根性論を重視している。
理不尽が人を成長させるのである。

【質疑】

・どうやったら市民が政治に関心を持つか？
臨場感ある政治活動があると関心持つのでは
メディアのあり方について
叩かれた経験もあり、かなり疑っている

いずれも筋は通っている

しかし、思惑があるので、その背景や構図を読んで対処する必要

・時代が変わる中でどのように指導方法を変えているのか？

今はよい子ちゃんばかり

ひねくれた奴がない。

まとめやすいが、力がなくなった部分が多い

反発係数がなくなった

くそー！と思って頑張る

皆の前で恥かかせて、心に火がついて奮起していたのが、今はくそー！が出てこない

やめろ！と言ったら本当にやめてしまう

辞めて違う道に行っても、越えなければいけない壁にぶち当たり結局つまづき、繰り返す。

自分探しの旅に出かけ、帰ってこなくなる

反発係数で越えさせたのが、手を引っ張って越えさせなければならない

越えれば自信の獲得につながる